

埼玉県租税教育推進協議会長賞

税について考える

熊谷市立大幡中学校 三年 北 友美

「税金」と言われても私達中学生には、ピンとこない。働いているわけではないので、納税義務がないからかもしれない。唯一払っているのは、文房具や食品を買った時に払っている消費税だ。しかしこの消費税も品物の値段の中に含まれているので、あまり払っているという自覚がない。

最近、国会で消費税の引き上げについて議論しているようだが、例えば七パーセントになるとなったら、それだけでも国民の負担が大きくなってしまう。では、外国と比べるとどうだろうか。ヨーロッパ諸国では、二十パーセント近い消費税を払っているところも多い。所得税や固定資産税などの直接税と比べると消費税は、商品といっしょに払っているわけだから、納めやすい税と言ってよいと思うし、国や市町村では、徴収しやすい税だと思う。

今回、税について考えたり調べたりして、自分があまりにも税金について知らなすぎ、関心がなかったことに情けなくなった。じっくりと考えてみると、税金は弥生時代の邪馬台国のときからあったようだ。豊臣秀吉の太閤検地をへて、明治時代の地租改正で現金化され、所得税を払うようになったらしい。国という形ができていない大昔から、米や布、兵役として税があったわけだから、生活を支えるにはなくてはならないものだと考えられる。

私達の住む埼玉県では、教育費が全体の三分の一位を占めている。そして、中学生一人当たりの一年間の学校教育費は、九〇万円以上に上るというから驚きである。私一人にこんなに高額な税金を使わせてもらっているわけだから、それに応えられるような人間になるためにも一生懸命勉強をしなければならないと思った。「子供は国の宝」とよく言われるが、県の歳出のトップが教育費であるから、いかによい人間を育てることが大切か分かるような気がする。そのためにも、将来より多くの税金を納めて、社会に貢献できるような人間になりたいと思う。

最後に私が提案したい税として、知床半島や屋久島などの世界自然遺産を有する地方では、すばらしい環境を保護し、伝え残していくために、わずかでもいいから環境税のようなものを観光客に払ってもらおうというのはどうだろうか。そうすれば、環境破壊や自然保護に対する国民の意識も高まると思う。

そして、税金は納税の義務により払わされているものと考えず、私達の生活をよりよくするための必要な経費だと思って納められるとよいと思った。